



○「地域福祉フォーラムの開催」

平成20年3月に「地域福祉フォーラム」で、「地域での助け合いの輪をどう作っていくか？」をテーマに、住民流福祉総合研究所の木原孝久所長をお招きし、講演会を開催しました。

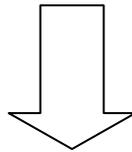
木原先生は、「住民の支え合いマップ」を提唱してこられ、「地域では、福祉の制度が拾いきれない日常的な『すき間』がたくさんできてしまっている。この支え合いのマップづくりを通して、地域の様々な課題が見えてくる。」とマップづくりの重要性をお話されました。

○マップづくりの実践



地域福祉フォーラムの内容を中央区の実践としていくために、再度、木原先生にお越しいただき、保健・医療・福祉ネットワーク推進員さんや民生委員さん、町会長さん、住民の皆さんにご参加いただき、“住民がご近所でどのようにふれあい、助け合っているのか？”要援護者は、どのように生活を行なっているのか？”を1つの地図に集約することにより具体化し、実態を把握していくノウハウを、3回に渡り学びました。

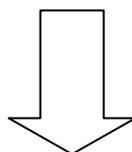
1 回目



○講義「住民流の助け合いのあり方とマップづくりの方法」

1) まずはじめに、マップづくりの目的や活用方法、有効性についてわかりやすくお話いただきました。また様々な地域の事例を通してマップづくりの基本を学びました。

2) 木原先生が用意していただいた模擬のマップを使って、様々な情報から実際の地図に落とし込むにはどうしたらいいのか？といった手法を学びました。



2回目

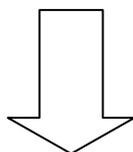


○実践「実際の地図を使ってのマップづくり」

1) いよいよ実際のマップづくりです。それぞれのご近所ごとにグループを作り、実際の名前が入った住宅地図に、皆さんの知っている情報を記入していきました。普段あまり気付いていないことでも、4～5人が集まって話し合うと地域の色々なことが見えてきました。

2) 作成したマップから見えてきた、地域の課題・今後の取り組み等を考え、発表しあいました。

3回目



○実践「助け合い起こし手帳に記入」

実際に作成したマップづくりの結果をまとめるために、各項目に沿って記入していきます。そこから、住民の生活課題や福祉機関との連携、福祉資源（人やサービスや企業や公共機関等々）が見えてきます。そして、根本的な問題をまとめていき当面の取り組み課題を浮き彫りにしていきます。



○モデル地域でのマップづくり



さらに細かく、マップづくりのノウハウや

手法を学ぶためにモデル地域を2地域（桃園・桃谷）にしぼり、先生とマンツーマンによるマップづくりに取り組みました。



来ていただいた方も、前回のように、校下単位ではなく、さらに絞り込んだ

1町会単位から、それぞれ6名の方に来ていただき、みなさんがもっている情報をもとに地図に落とし込んでいきました。

その地図を使って、地域の課題（性格）を把握したり、また今実際に行なわれ



ている「助け合い」を整理することにより、新たな「世話焼きさん」、「大阪のおばちゃん」の存在が浮き彫りになってきました。

マップづくりは、マップをつくるのが目的ではなく、『活動課題を見つけるためのマップ』、『活動に移すためのマップ』として、これからも地域福祉の推進のためのキーになるアイテムとして進めていきたいと思えます。

中央区地域福祉アクションプラン

「支え合いのマップづくり」

